

平成25年11月19日
千葉大学

「創作狂言 はごろも かたり」公演について

このたび、千葉大学では、公益財団法人千葉市文化振興財団と連携して、下記の通り、「創作狂言はごろも かたり」を上演することになりました。これは、千葉大学 普遍教育 教養展開科目「伝統文化をつくる」の授業を通じて、狂言師の指導の下、学生が台本作りや小道具作り、チラシ作成などを行なってきたものです。

この創作狂言は、房総に伝わる文化や伝承をもとに、新たな創作狂言を作っていくプロジェクトです。和泉流狂言師小笠原匡を中心に、公益財団法人千葉県ならびに市文化振興財団、NPO法人フォーエヴァー、市民、そして千葉大学の学生が連携して、「見る、知る、伝える千葉～創作狂言～運営委員会」を構成し、運営しています。

今回の公演は、千葉に伝わる天女の羽衣伝承を取り上げ、舞台化します。羽衣伝承は全国各地にさまざまなものがありますが、千葉の羽衣伝承もそのひとつで、千葉氏の伝説とも結びついています。舞台では、天女を妻にするため羽衣を隠した男と天女とのやりとり、男の城に住みついた魍魎魍魎たちや池の松との会話を、幻想的かつユーモアあふれる演出で描いています。現代的な風刺をも盛り込みながら、魅力的な舞台に仕上がりがつつあります。

なお、本公演は、第一部に古典狂言「魚説法」の上演も行われます。
つきましては、多くの方々にご覧頂きたく、ご案内申し上げます。

記

公演名：「創作狂言 はごろも かたり」
日時：12月15日（日） 13時30分開場、14時開演
場所：千葉市文化センター アートホール
料金：〔全席指定〕大人 2,000円、学生 1,000円

詳細はこちら→<http://www.f-cp.jp/info/kouen.php?serial=1336>

〔添付資料〕

1) 「創作狂言 はごろも かたり」ポスター

本件に関するお問い合わせ先
千葉大学学生部普遍教育室
Tel : 043-290-3645

創作狂言

第二部 創作狂言

見る、知る、伝える千葉

はごろもかたり

「はごろも かたり」

作・演出 小笠原匡
制作協力 千葉大学

小笠原 匡
小笠原 弘晃

松代 尚子

加藤 充華

若菜の会 千葉大生

創作狂言体験講座参加者

第一部

レクチャー &
デモンストレーション
狂言「魚説法」
新発意 小笠原 弘晃
アド シテ 施主 小笠原 匡

アド シテ 施主 小笠原 匡

平成25年12月15日(日) 開場 13:30 開演 14:00
千葉市文化センター アートホール

全席指定 大人 2,000円 大学生以下 1,000円 ※就学前児のご入場はできません。

千葉県文化センター	043-224-8211	千葉市民会館	043-224-2431
千葉県若葉文化ホール	043-237-1911	千葉市男女共同参画センター	043-209-8771
京葉銀行文化プラザ	043-202-1790	千葉市美浜文化ホール	043-270-5619
千葉県文化会館	043-222-0201		

※インターネットでもご購入いただけます。 インターネット予約 千葉市文化振興財団 検索 <http://www.f-cp.jp>

主催：公益財団法人千葉市文化振興財団（アートプレックスちば事業体）

公益財団法人千葉県文化振興財団

後援：千葉市、千葉市教育委員会 協力：ちば文化振興ネットワーク協議会

運営：見る、知る、伝える千葉～創作狂言～運営委員会

助成：芸術文化振興基金

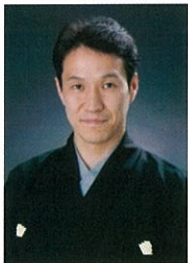
問合せ：公益財団法人千葉市文化振興財団（アートプレックスちば事業体）043-221-2411



芸術文化振興基金助成事業

第一部	レクチャー& デモンストレーション 小笠原 匡	狂言についての知識や演技方法を、実演を交えながら解りやすく説明致します。まず、はじめに、狂言の簡素な舞台の意味、そして次に狂言独特の演技方法、例えば・道行き（場面が変わるときに用いる）・擬音（効果音、動物の鳴き声などの表現）・小道具（扇の使い方）などの約束事をお話し致します。 又今回は特別に会場の皆様と一緒に狂言の「笑い」や「泣き」など喜怒哀楽の表現を楽しく体験して頂きます。
	うおせっぽう 狂言「魚説法」 シテ 新発意 小笠原 弘晃 アド 施主 小笠原 匡	新発意（僧になったばかりの者）が一人で留守番をしているところに、ある男が住持に説法を頼みにやってきます。新発意は住持の代わりに出かけていきますが、お経など読んだ事もなく、困ってしまいます。そこで海育ちの新発意は事もあるうに魚の名前を連ねて説法をします。魚の名づくしで仏法を説くのが聞き所の作品。「何々づくし」の文章は日本文芸の伝統のひとつです。
第二部	創作狂言 「はごろも かたり」 小笠原 匡、小笠原 弘晃 松代 尚子、加藤 充華 若菜の会、千葉大生 創作狂言体験講座参加者 作・演出 小笠原匡 制作協力 千葉大学	下総国池田の郷に住む男。なんとか嫁をもらいたいと妙見様に願うと、月夜に池田池に参るようにとのお告げがありました。 男が池にやってくると、天女が舞い降ります。男は、天女がぬいだ羽衣を隠して地上にとどまらせ、夫婦となり、子をもうけて、千葉の殿様となるまで出世します。 しかし、天女は羽衣を見つけるや、天に帰ってしまいます。男はショックのあまり、病気になってしまいますが、そこへ天女が戻ってきて…。

おがさわら ただし
作・演出 小笠原 匡 和泉流狂言師

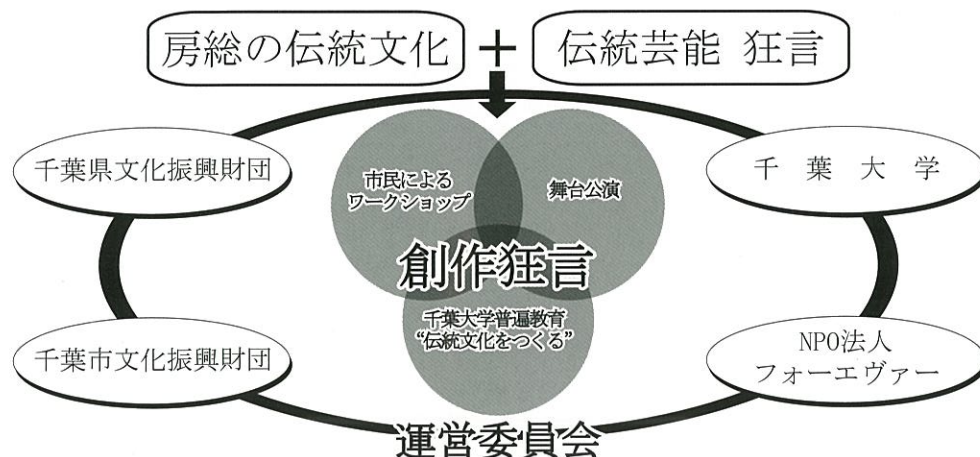


1965年東京生まれ。初世野村萬(芸団協会長・人間国宝・文化功労者・芸術院会員)、故8世野村万蔵、9世野村万蔵に師事。すでに狂言の大曲である「奈須与市話」「三番叟」「釣狐」「金岡」「花子」を披く。また、新作狂言「鉢かづき」などの作・演出を手がける。さらに、能・狂言・文楽・落語・講談・和太鼓という6つのジャンルのコラボレーションをめざした「風流」を主宰して、「刀こぶ」「良忍さん」「石川五右衛門」などを作・演出する。愛知万博開催記念特別公演「ふるさとの四季」作・演出・主演。

2005年はNHK大河ドラマ「義経」、2006年はNHK金曜時代劇「出雲の阿国」の芸能指導を担当した。2007年には「狂言と鼓童のコラボレーション・蓬萊貴譚」を作・演出する。2013年秋期NHK連続テレビ小説「ごちそうさん」所作指導。現在、萬狂言関西支部代表、重要無形文化財総合指定保持者、(社)日本能楽会会員、(公社)能楽協会会員、千葉大学客員教授、桃山学院大学客員教授、佐渡「鼓童」指導講師。ホームページ<http://www.atelier-oga.com/>

「見る、知る、伝える千葉～創作狂言～」とは 古くて新しい伝統文化への取り組み

房総に伝えられてきた民話や伝承をもとに、和泉流狂言師小笠原匡、千葉大学、公益財団法人千葉県文化振興財団、公益法人千葉市文化振興財団、市民が新たに創り上げてきた狂言の舞台です。千葉大学、県・市の文化振興財団、NPO法人フォーエヴァーで運営委員会をつくり運営を行っています。これまでに「千葉わらい」「千葉の羽衣」「鬼来迎」「オトタチバナヒメ」「水戸黄門と藪しらず」という作品を創り、上演してきました。



〈千葉大学の取り組み〉

千葉大学の学生は普遍教育「伝統文化をつくる」の授業の中で、これまで先輩たちが創ってきた狂言の舞台制作について学び、その伝統を受け継ぎながら今年の台本作り・小道具作り、展示物の作成、狂言ワークショップへの参加などを行っています。